

北海道  
後志地区農協青年部協議会

# 後志地区農協青年部協議会 ポリシーブック2014

～若手農業者における政策提言～

# 後志地区農協青年部協議会

## ポリシーブック2014

### 目次

1. 農業政策について
2. 新規就農者および農業労働者の確保について
3. 農業経営について
4. 農地の集積、経営規模の拡大について
5. 青年部活動の活性化について
6. 農業のイメージアップについて
7. 原発問題について

### 1. 農業政策について

ねらい

- 農業者が安心して営農に取り組んでいくためには、法制化等により中長期的に継続される制度を構築し安定した運用をしていくことが必要である。
- 農業政策は農業者のためだけに行われているのではなく、安定した食糧供給を行うことで国民の生活を守るという一面があることを広く国民に理解してもらう。
- 例外なき関税撤廃を原則とする TPP 参加は断じて反対である。（修正；交渉削除）

### ① 農業政策全般

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J A への要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生産品目での差があるように思われる。</li> <li>○ 農業政策の見直しが図られ、米交付金の減額など農業収入が十分確保された政策が行われるとは言えない。現場の意見を汲み取らないまま実施された制度は必ずしも農業者のための政策とはなっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業政策の方向性の変更等に対応できるように常に勉強する。</li> <li>○ ポリシーブックを活用し、青年部の想いを各種団体に伝えていく。</li> <li>○ イベント等を通じて、消費者に対し政策等についての情報を発信し、理解を得る。</li> <li>○ 農業政策の方向性の変更等に対応できるように常に勉強し、政策提言を行う上で必要な知識の習得に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現場の意見・要望を認識し、現場の実情に合った中長期の農業政策の策定を要望していく。</li> <li>○ J A を通じて国内への農業政策への理解促進を働き掛け、国内農業を維持する運動を展開してもらいたい。</li> <li>○ 農業政策の変更・改正に伴う情報開示・発信を素早く提供できるような体制をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 政策の方向性が、中長期的に継続される仕組みの構築と安定的な運用を行うってもらいたい。</li> <li>○ 生産品目にとらわれない中長期に継続される支援を行うってもらいたい。</li> <li>○ 農業者が望む政策について、農業者・消費者・政府等の話し合いの機会を持ち、広く国民全体が納得のいく制度の設立を目指してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かかし祭り農産物即売会</li> <li>○ 青年部員メロン抑制ハウス視察</li> <li>○ 青年部ポロシヤツを作りアップールでできる場で着る。</li> <li>○ テレビや雑誌への出演。</li> </ul>

②貿易交渉（TPP・EPA・FTA等）

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	JAへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○TPP 交渉についての、政府は前のめりの姿勢を示しており、また国民への正しい情報が伝わっていない。</p> <p>○食糧自給率アップ、農業人口アップに反したTPPを進める意味が理解できない。</p> <p>○TPPについて正確な情報提供がなされないまま交渉参加し、十分な国民の理解が得られていない中で参加に向けた動きが進んでいる。</p>	<p>○TPPの仕組みの勉強を行い、断固反対という強い気持ちを持ち反対運動の強化を行う。</p> <p>○新聞等で常に情報を収集、TPPについての一定の知識を青年部全体で持つ。</p>		<p>○十分検討し、現状を迅速に公表する。</p>	<p>○TPP問題・戸別所得補償制度についての勉強会</p> <p>○石狩・後志TPP情勢報告会</p> <p>○TPP反対集会（10名）</p> <p>○TPP反対街宣（3カ所）</p> <p>○TPP反対・代議士要請</p>

## 2. 新規就農者、農業労働者の確保

ねらい

- 離農者や後継者がいない農地が増加している地区があり、不作付地・耕作放棄地化している。農地の受け手が不足する地区での担い手の育成を行うことで、新規就農者を確保し地域農業を活性化する。
- 自らの経営規模の拡大や、過重労働の適正化に対応して農業労働力確保を行うことで、経営を安定させたい
- 離農者や後継者不足により農業者の減少が如実に表れる地区があり、農地の不作付地・耕作放棄地化が進行している。一方で青年就農給付金などの新規就農対策が措置されたことから、これらの制度の現場への浸透を促し担い手の育成を行うことで、新規就農者を確保し地域農業を活性化する。
- 後継者の経営を次世代に継続していくため、未婚の後継者を対象にした婚活事業の拡充を図り、地域の活性化に繋げていく。

### ①新規就農者の確保

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J・Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規就農者の受け皿が少なく、就農時の初期投資額が大きいため、生計が成り立っていない新規就農者は少数である。</li> <li>○青年就農給付金は親元就農、親族からの貸貸も対象となり、より交付を受けやすい体制が整ってはいるが、独立・自営就農における土地利用型農業への就農にあたっては、就農時の初期投資額が大きく、それを補う政策・融資制度も少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規就農者からの農業技術の相談はもとより、生活等の個人的な相談を受け、新規就農者が地域に溶け込むための橋渡し役となる</li> <li>○仲間として受け入れる体制や理解・雰囲気作りが必要。</li> <li>○新規就農者への生産から販売までの支援体制を強化する。</li> <li>○就農研修先となる農家の受入体制を整備する。</li> <li>○青年就農給付金の制度を理解し、中長期的な経営目標を持つた上で交付を受け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規就農者を受け入れる各種制度の受け皿となれるような体制作りを行う。</li> <li>○経営が安定するまでの資金的・技術的サポート体制を充実させる。</li> <li>○各種研修を受講してもらい、さらに部会の講習会や技術習得の場への参加の促進を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長く続けられる人材の選出。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○就農者が増え、それによって地域社会が活性化される施策を実施してもらいたい。</li> <li>○新規就農者に対する生活基盤及び農地の提供に対する支援をしてもらいたい。</li> <li>○初期投資に係る資金支援や各種研修に対するサポート体制を充実させ、新規就農者の就農後の支援をしてもらいたい</li> </ul>		

<p>○婚活事業においては、農業に対す一般の理解が十分では無く、参加者確保が難しい状況である。</p>	<p>る。</p>	<p>い。 ○労働者、研修生を育成する機関や年間を通じて労働力を確保するための宿泊施設を整備してもらいたい。</p>	
---	-----------	--	--

②労働力の確保について

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	JAへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○パートの減少及び高齢化等により労働力の確保が難しくなっており、農繁期の労働力の確保が課題になる。特に農業機械を扱える人材が不足している。</p>	<p>○派遣会社への人材確保に ついての依頼やハローワークなどを活用し、職場の環境・雰囲気作りに努める。 ○季節ごとの労働人員の需要と働ける時期をまとめ把握する。季節労働者の囲い込み。 ○労働力に見合った作業計画を立て、仲間同士の作業内容を理解し、連携を取り合う。 ○町外の仕事をしない若い人を呼び込む。</p>	<p>○就農者が増え、それによって地域社会が活性化される施策を実施してもらいたい。 ○コントラクター事業や共同作業を通じ労働力確保を支援してもらいたい。 ○長く続けられる人材を選出するための労働者を斡旋管理する組織を作る ○多様な農業形態があることから、季節ごとの労働人員の需要と働ける時期をまとめ、把握できる体制を整えてもらいたい。(システム化) ○年間を通じて労働力を確保するための労働者の宿泊施設を整備してもらいたい。</p>	<p>○システムを統括する組織を作り対応できないか。</p>	

### 3. 農業経営について

ねらい

○農家経営の安定化を図るため、生産資材価格の高騰や農産物価格の低下が農業経営に及ぼす影響の把握と対応策の検討をしてもらうとともに、営農活動に支障のないように必要な支援施策を実施してもらう。  
○農業者自身の更なる経営能力の向上を図る機会を増やす。

#### ① 農産物価格・生産資材価格・経営者能力の向上

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J A への要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○生産資材価格の高騰や農産物価格の下落傾向が、農家経営に大きな影響を及ぼしており、農業経営の継続や農産物の安定供給にきわめて深刻な事態となっている。</p> <p>○コスト管理や品質向上のための努力は継続して行っているが、更には場の土壌分析や施肥・防除の分析といった営農に関する分析、また、経営に係る分析を行うなどの営農・経営能力の向上を必要としている。</p>	<p>○土壌分析等に基づく施肥管理・適期防除を励行し、コスト削減に努める。</p> <p>○生産原価計算など経営の分析を行い、現状を把握し経営に反映する。</p> <p>○品質の維持・安定生産に努め、PR活動を強化する。</p> <p>○情報交換を行い経費の削減に努める。</p> <p>○安全・安心・高品質な農産物を安定生産し、生産者側が販売価格を決められるような販路の確立。</p>	<p>○安価で有用な資材の提供に努めてもらいたい。</p> <p>○Yes! Clean等の登録や特別栽培等の付加価値農産物ならびにPR強化による農産物価格への反映を目指す。</p> <p>○産地のPR強化をし、消費者への情報発信を行い、様々な販路開拓による価格の維持、浮揚に努めてもらいたい。</p> <p>○適正な施肥管理、適期防除などの生産技術の提供や、経営相談の窓口の拡充。</p> <p>○新しい農業等の開発を推進してほしい。</p> <p>○消費者に対し国内農作物の消費拡大に繋がるPR活動を行う。</p>	<p>○国際交渉を通じ、資材安定供給の環境を整えてもらいたい。</p> <p>○セーフティネット対策の導入が必要であり、発動時には迅速な対応が出来る制度を構築してもらいたい。</p> <p>○補助金・助成金の充実をしてほしい。</p> <p>○ワイン特区、6次産業化等に対する支援、経営体系の安定・規模拡充の推進。</p> <p>○国際交渉を通じ、日本の農産物のPR、販売ルート確保や資材の安定供給の環境を整えてもらいたい。</p>	<p>○土壌分析、講習会の開催</p> <p>○防除歴検討会時に農業メーカーやホクレンに新規農業の要望</p>

②税制（消費税・免税軽油の取り扱い等）

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○冬期間の施設維持作業に係る免税軽油が制限されている。</p> <p>○免税軽油廃止への懸念。</p> <p>○消費税増税の不安</p>	<p>○バイオ燃料等の検討。</p> <p>○税について理解を深める。 (情報交換をして経費の削減)</p>	<p>○免税軽油について、中央会・ホクレンとともに、冬期間の施設維持作業に係る対象範囲の拡充と恒久化を申し入れたい。</p>	<p>○農家経済や所得を圧迫する安易な消費税増税には賛同できず、議員定数の削減等やるべきことをやっ てから導入してもらいたい。</p> <p>○生活必需品等について消費税免税できないか。</p> <p>○増税に至る過程を考え国民一人一人の意見をもっと聞いてほしい。</p> <p>○農家負担が大きくなるので、少しでも減税になるような仕組み作りを考えしてほしい。</p> <p>○一律の消費税増税ではなく、分野毎に増税率をかえてほしい。</p> <p>○全額福祉等にあててほしい。</p>	<p>○税に関する勉強会の開催</p>

③鳥獣害対策

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○鳥獣による農作物被害が増加しており、対策が求められる。</p>	<p>○勉強会の開催と、皆が深刻な問題としてしっかり考える。</p>		<p>○実害を減らすための猟銃取得、わな猟免許取得、猟銃維持費、柵・わな等の器具に対するサポートや助成をしてもらいたい。</p>	<p>○箱フナ資格、狩猟免許取得</p>



#### 4. 農地の集積、経営規模の拡大について

ねらい

農地の面的な集積を行い、農業経営の規模拡大を行うことで地域の農業を効率化させる。また、遊休農地や耕作放棄地発生を抑制することにもつなげる。また、規模拡大をすることで、各々の経営を安定させることにもつながる。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J Aへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○農地を集積し経営規模の拡大意向があっても、周りに農地の出し手がないため規模拡大ができない。また、出し手となる農地所有者がいても、土地への思い入れがあり手放さなため賃借することになり中長期的な営農計画が立てられないことがある。</p> <p>○遊休地。飛び地による他町村からの参入が見受けられ水田地域の協力体制が崩れる。</p> <p>○一部でかたよった土地の幹旋が行われている。</p> <p>○新制度である農地中間管理機構は、担い手への農地集積を加速させるため整備されたが、人・農地プランの作成主体である町村との連携が必要不可欠であり、また、地域の関係者の話し合いによるプランの作成も継続して進めなければならぬ。</p>	<p>○法人化による規模拡大等の勉強会を開催し、各地域でメリット・デメリットの話し合ができるようにする。</p> <p>○近場の地域の人たちとの連携を更に強化していく。</p> <p>○農地中間管理機構をはじめ、関連措置（青年就業給付金）等を理解し、効率的な経営ができるような農地集積の計画を立てると同時に、農地を引き受けられる地域に信用される農業者となり、次世代の地域担い手農業者となる。</p>	<p>○規模拡大を目指す担い手の育成を行ってほしい。</p>	<p>○人・農地プランの迅速な策定や、各種制度の説明会開催、制度の適正な実施をしてもらいたい。また北海道に適したマスタープランを作成してもらいたい。</p> <p>○コントラクター組織の受託者に対するサポート体制の充実及び助成することで、コスト及び労力を軽減する体制を整えてもらいたい（組織づくり）。</p> <p>○農地の流動化に向けて、農業委員会と連携し、的確な情報公開を望む。</p> <p>○J Aと行政が連携を強化する体制を整えてもらいたい。</p>	
			<p>○地域の農業振興計画を策定し、それに基づき農地の移動に伴う調整の一役を担っていく。</p>	

## 5. 青年部活動の活性化について

ねらい

○地域によって経営体系が違うことを再認識し、地域に根ざした活動を展開し、互いの理解を深める。また、全部員が、青年部活動の意義を知り、年齢にとらわれない活発な事業運営に取り組み。  
○青年部活動を通じ地域活動や農政活動を行うことで、地域農業の将来を担う人員としての意識の向上を図り、リーダーシップを身に付ける。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	J A への要請事項	取組の概要
<p>○経営体系が違うため、行事の開催時期の調整が難しく、行事の出席は役員への対応が多い。</p> <p>○世代間や個人毎に青年部活動の取り組みに温度差があり個人の意見がくみ取りづらく、地域によっては部員数の減少や仕事の多忙より役員に負担が集中している。</p> <p>○部員数が多いため全体会議では個人個人の意見が聞こえずらい。</p> <p>○行事のマンネリ化</p> <p>○組織討議の為の青年部役員向けの研修やリーダー養成研修などを開催しているが、参加する青年部員が少ない。</p>	<p>○青年部盟友が自ら考え、行動し、青年部活動に積極的に参加する。</p> <p>○地域やその青年部の特色を生かした活動を行い、盟友の状況を相互に理解しあえる活動環境を作る。</p> <p>○ポリシーブックを作成するプロセスを通じて、青年部活動の持つ意味を認識し新入部員や若い世代の部員に伝える。</p> <p>○青年部活動を充実させるための各種研修・勉強会を開き、個人の考えや意見等を言いやすい環境を整え、青年部の一員としての自覚を向上させる。</p> <p>○行事等は三役に頼らず役員全体で負担していく。</p> <p>○食育活動や消費者交流を通じて付加価値農産物のPRを行う。</p> <p>○婚活等に積極的に参加し、自己啓発を図る。</p> <p>○個人個人の意見をポリシーブックのアンケートで吸い上げる。</p> <p>○地域の次世代を担う農業者として、会議体や研修会などで積極的な発言や意見交換を行う。</p> <p>○青年の集い(ソフトボール大会等)の開催を通して、盟友の交流を図る。</p>	<p>○地域、組合員、盟友に対して青年部活動の大切さを伝えてもらいたい。</p> <p>○職員と農業者の親密な関係づくりができるよう努めてもらいたい。</p> <p>○青年部の意見や要望をくみ取り、迅速に施策や事業に反映させてもらいたい。</p> <p>○青年部活動を理解し活動支援する体制を整えてもらいたい。</p>	

## 6. 農業のイメージアップについて

ねらい

消費者と交流活動を通じて、食と農のイメージアップを図る。また、イメージアップの取り組みを進めることで、新しい担い手確保や販売促進に繋がっていく。

### 1 消費者との交流活動と担い手確保

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	JAへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>○消費者に対して付加価値農産物の取り組みに対する理解が進まず、意見交換の場も少ないため、なかなか価格に反映されない。</li> <li>○農業に対する良いイメージが高まらないため、新しい担い手が不足し、高齢化が進んでいる。</li> <li>○子育て世代が食に興味がない（※追加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ラジオやTV等で、イベントの告知をするともに、地域で行われている情報等をきめ細かく発信していく。</li> <li>○食育活動や消費者交流を通して付加価値農産物をPRする。</li> <li>○消費拡大事業を通し、素晴らしき後志農業を伝える。</li> <li>○婚活等を通して、農作業体験をを行い、イメージアップを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異業種交流、農商工連携等で行政とJAが中心となり、新たな加工品の開発やイベント等を実施すること、後志管内を活性化してもらいたい。</li> <li>○アイドルを発掘し、農業のイメージアップを図ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町名を共和町から「らいでん町」に変える。○アピールする場を増加してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「後志をもっと知るべしフェア」を札幌市ホテルニューオータニにて実施。来場者にアンケートを実施。</li> </ul>

### ②販売促進

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	JAへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>○知名度が低く、ブランド力の強化が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販促等の活動にできる限り協力し市場や消費者へアピールしていく。</li> <li>○個人個人がより良い作物を作り市場・消費者への信頼を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○町名を共和町から「らいでん町」に変える。○アピールする場を増加してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○かかし祭り農産物即売会</li> <li>○青年部員メロン抑制ハウス視察</li> <li>○青年部ポロシャツを作りアピールできる場を着る。</li> <li>○テレビや雑誌への出演。</li> </ul>

## 7. 原発問題について

ねらい

- 東京電力福島第一原発事故による放射性物質汚染問題については、食料の安全・安心にも大きな影を落とし、農畜産物の生産現場では、風評被害に脅える日が続いている。
- 北海道電力泊原子力発電所は後志地区に設置され、エネルギーの安定供給のために稼働している我々青年農業者はこの原発に對していろいろ異なる意見がある中、どう考えどう向き合っ生きていくのか次代に繋ぐ営農のために目を背けられない事柄である。

現場の現状・課題	個人・青年部の取組	JAへの要請事項	行政への要請事項	取組の概要
<p>○地域住民は福島原発事故の記憶も新しく不安を払拭できずに生活しており、後志地域で営農している農業者も安全、安心な農産物を生産する上で、原発問題に對して危惧している現状である。</p> <p>○農業などの産業維持のみならず、ライフラインとしての「電力の安定供給」は大前提であり、代替電力供給の目的が立たない状況では、国が保障する安全強化策を講じた上で万全を期した原発運転が必要である。</p> <p>○原発の風評被害。</p>	<p>○「原子力発電」がなぜ必要となり、どういった歴史に登場したかという事をしっかりと把握し、その視点から現在の福島原発事故の影響、エネルギー供給における再稼働問題を考え抜いてはならない。</p> <p>○日常の生活や営農を常きでも、節電する意識を常に持ち続けて、エネルギー資源の節約に努めることが重要である。</p>	<p>○地域住民の声や農業者の意見や考え方をしっかりとまとめ上げ、国や道、電力会社に万全な対応策や不安を払拭する対策を申し入れてもらいたい。</p>	<p>○エネルギー政策は、食料政策と同様に国家の重要な責務であり、万全な安全確保に基づき安定供給が求められ、「経済性」「環境適合性」をも考慮した中で短期、中期、長期の各枠組みで対応策を構築すべきである。</p> <p>○既存の原発については、代替電力供給の目的が立たない状況の中、国が保障する安全強化策を講じるべきである。</p> <p>○風評被害が決して起こらぬよう措置を講じるべきである。</p>	<p>○地元選出道議会議員との意見交換会を実施</p>

2015年度 JA ようてい青年部ポリシーブック

・ポリシーブックとは・・・

2011年から全国のJA青年部において組織の活性化を図り、行政や関係機関に対して青年部としての主張を訴えていくツールとして、政策提言集（ポリシーブック）が作成、活用されている。単組→地区→北海道→全国と積み上げて年々更新していくもので、地域が抱える問題を部員たちで解決できるものから取り組んでいき、国会議員や自治体、関係機関へ若手農業者の意見として提出している。

課題	個人・青年部で取り組むこと	JAに行ってほしいこと	行政へ要請すること
基盤整備に乗れず圃場整備が進まない	除礫等の実施	公社事業への補助 基盤整備基準見直しの行政への要請	行政へ要請すること 基盤整備基準の見直し (面積、年齢等)
資材高騰による収益の減少	土壌分析による適正施肥の実施 JA早期取りまとめの活用	営農指導の充実化 資材流通の明確化（ホクレン物流等）	高騰分の補助 税制の見直し等
労働力不足	年間労働時間の過不足の明確化 作業効率化に向けた検討	無料人材斡旋事業の設立 シルバー人材の斡旋	都市部からの人材流入に向けた取り組み ライフプランの環境づくり
担い手対策（新規就農・後継者）	地域の受入体制構築に向け協力	新規・後継者のための学校設立・育成 受入体制を行政と連携して構築 新規者へ土地を斡旋する仕組み作り	新規参入のハードルを低くする取り組み 農業・農家のポジティブPR
鳥獣害対策	狩猟免許・ワナ資格の取得	狩猟免許・ワナ資格の取得 電気柵等への助成 資格取得に対する勸奨と情報提供	狩猟免許・ワナ資格の取得 電気柵等への助成 資格取得に対する勸奨と情報提供
収量・収益確保	生産技術の向上に向けた研修への参加 経費の見直し・削減	JA試験圃の設置（品種・農業等） 既存試験の部会周知の徹底 最新の営農情報を提供（系統外含む）	安定的な農業政策に向けた法整備 消費者の資材高騰分の価格転化への理 解促進
配偶者対策	当該事業への前向きな参加 自身の魅力UPに努める	イベントの開催 婚活HP開設（未婚者リスト）	農業地域・農業者のPR 自治体の婚活への理解度向上

※課題の洗い出しについては継続的に続けていき、次年度以降へと反映させていきます。

2015 (平成27年) ポリシーブックJAきょうわ青年部

現場の現状 (問題点)	個人・青年部として取り組むこと	青年部として実施した事	行政等へ要請すること	その他
<p>TPPPについて前のめりである</p>	<p>①勉強会の検討。 ②新国反対という強い気持を持ち、近隣町村と一緒に反対運動に参加。 ③新聞等で常に情報を収集、TPPPについての一定の知識を青年部全体で持つ。</p>	<p>・H23.2.21 発足支所大ホール TPPP問題・戸別所得補償制度についての勉強会87名 ・H24.3.10 石狩・後志地区TPPP情報報告会1名 ・TPP交渉参加に抗議 H25.7.25 札幌 中島公園 10名 H25.6.15 倶知安 生協 3名 ①JAグループ改革の説明会 H26.8.6 倶知安 4名 H26.10.27 倶知安 1名</p>	<p>①充分検討し現状を迅速に公表してほしい。</p>	<p>①食料自給率アップ、農業人ロアッパに反したTPPPを進める意味が理解できない。  ①生活必需品等について消費税免除出来ないか。</p>
<p>消費税増税の不安</p>	<p>①税について理解を深める。 (情報交換をして経費の削減)</p>	<p>・H25.1.17 発足支所大ホール 税に関する勉強会 24名</p>	<p>①増税に至る過程を考え国民一人一人の意見をもっと聞いてほしい。 ②農家の負担が大きくなるので、少しでも減税になるような仕組み作りを考えてほしい。 ③一律の消費税増税ではなく、分野毎に増税率を上げてほしい。 ④公務員や国会議員の人員削減をしてほしい。 ⑤全額福祉等においてほしい。</p>	<p>①維持継続してほしい。</p>
<p>免税醤油の廃止懸念等  ★農業者としての知識向上及び必要な資格などの取得</p>	<p>★講習会や勉強会の実施と積極的な参加 ★資格の取得</p>	<p>・農業機械高度利用研修(初級)H25-2名 ・農業機械高度利用研修(中級)H25-2名 ・フォークリフト運転技能講習H25-5名 ・車両系作業運転技能講習H25-1名 ・玉掛作業運転技能講習H25-2名 ①H26.10.9 農機整備講習会 32名 ②H27.3.16 発足支所補助事業及び農業情勢についての勉強会</p>	<p>一部～全額助成による資格取得</p>	<p>H26助成 ・農業機械高度利用研修(初級)【31,600】 ・農業機械高度利用研修(中級)【29,650】 ・フォークリフト運転技能講習【4,400】 ・車両系作業運転技能講習 ・玉掛作業運転技能講習</p>
<p>資材の高騰・農産物価格の低下による農業収益の低下。  パートの減少及び高齢化等労働力の確保が難しくなっている。労働力が欲しい期間に波がある。  遊休地。飛び地の増加による他町村からの参入が見受けられ水田地域の協力体制が崩れ始めている。</p>	<p>①土壌分析による肥料の削減。 ②情報交換を行い経費の削減に努める。  ①労働力に見合った作業計画を立て、仲間同士の作業内容を理解し連携を取り合う。 ②町外の仕事をしたい若い人を呼び込む。  ①法人化による規模拡大等の勉強会を開催し、各地域でメリット。デメリットの話し合いができるようにする。 ②JAきょうわの中で近場の地域の人手との連携を更に強化していく。</p>	<p>・H24年度 (H25.3報告) 25件166点 H25年度 (H25.11参入) 全体会議で全員に周知案内文を青年部員に送付 ・H26.3.5 土壌分析についての講習会 23名</p>	<p>①補助金・助成金の充実をしてほしい。  ①労働者・研修生を育成する環境をつくってほしい。 ②事務局の様な統括する組織をつくり対応してほしい。  ①コントラクター(受託者)に対するサポート及び助成をしてほしい。 ②受託作業によるコスト・労力の軽減(組織づくり)</p>	<p>①新しい農業等の開発を推進してほしい。 ※H25.12防除歴検討会時農業メモーカーやボクレンに新規農業の要望を行った。  ①ハローワークを上手に利用する。  ①マスタープランは、北海道には適さない。  ①原発の風評被害。</p>
<p>ブランド力の強化</p>	<p>①販促等の活動にできる限り協力し市場消費者へアピールしていく。 ②個人個人がより良い作物を作り市場・消費者への信頼を図る。</p>	<p>【アピール】H25-112枚、H26-3枚作成 ①H25・26青年部ポロシャツを作りアピールできる場に着る。(青年部の集いやかかし祭り・販促・青空教室・食育活動時など) ②共和町全小中学校対象(らいでん食農教室)16名 ・H25テレビや雑誌への出演(アグリ王国・どさんこワイド・ニューカンントリー9月号)</p>	<p>①アピールする場を増加してほしい。</p>	<p>H25助成額 ・狩猟免許取得補助12,000円(印紙5,200+診断書6,000程度)×1/2 ・試験予備講習受講料5,000円×1/2 H26助成額 ①おむすび15,000円②銃器50,000円</p>
<p>きょうわ青年部の部員数が多いため全体会議等では個人個人の意見が聞かせづらい。</p>	<p>①個人の考え意見等のべられる雰囲気作り青年部一員としての自覚の向上。 ②個人個人の意見をポリシーブックのアンケートで取り上げる。</p>	<p>①農協役員との懇談会H26.3.14 25名</p>	<p>①先手を減らすための置及び集積取得・維持のためサポポート及び助成を厚くしてほしい。</p>	<p>箱ワナ資格…H21(16名)、H22(10名)、H23(15名)合計41名取得(有効期間は10年) H24狩猟免許の取得…青年部員8名</p>
<p>鳥獣対策</p>	<p>①勉強会の開催 ②皆が深刻な問題としてしっかりと考える。</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>

JAよいち青年部 ポリシーブック 2014

～若手農業者の長期的な営農活動のために～

現場の状況（問題点）	ねらい	個人・青年部、JAとして 取り組むこと	青年部で実施したこと	行政等へ要請すること	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業政策が短期間で変更、また生産品目での格差が多くある。</li> <li>・新規就農者が増えている中、研修を受け入れられる農家が少ないのが現状である。</li> <li>・就農までの支援はある程度充実しているが、就農後の支援を強化する必要がある。</li> <li>・高齢化、後継者不足等で離農者の増加に伴い遊休地・耕作放棄地の拡大</li> <li>・農家の経営規模拡大に対する支援・助成の拡充</li> <li>・地域や農産物のブランド力を確立、多方面へのアピール強化</li> <li>・生産資材の高騰・増税等によるコストの負担が大きいの。</li> <li>・生産農産物の価格変動の低迷による営農収益の減少。</li> <li>・有害鳥獣による被害拡大の対策強化</li> <li>・青年部活動の参加が一定の部員に集中傾向である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者が安心して営農に取り組んでいける安定した農業政策制度の継続</li> <li>・生計が成り立っていない就農者の経営の安定化をはかり、地域農業の活性化を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業政策を理解、活用するための勉強会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会（4月 剪定講習会、8月 夏季研修会）</li> <li>・交流会（JA職員・役場・普及センター）</li> <li>・味覚の祭典出展 9月（販促、ワインの展示）、</li> <li>・食育活動 9月（中学生）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産品目にとられない中長期にわたって継続される農業政策の確立と支援</li> <li>・新規就農者等に対する宿泊施設の設置</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化、後継者不足等で離農者の増加に伴い遊休地・耕作放棄地の拡大</li> <li>・農家の経営規模拡大に対する支援・助成の拡充</li> <li>・地域や農産物のブランド力を確立、多方面へのアピール強化</li> <li>・生産資材の高騰・増税等によるコストの負担が大きいの。</li> <li>・生産農産物の価格変動の低迷による営農収益の減少。</li> <li>・有害鳥獣による被害拡大の対策強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資材価格高騰などで農業経営に及ぼす影響を緩和し、安全・安心・高品質の農産物を安定生産し、消費者に積極的に生産物のアピールを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部員間との情報交換はもとより、対外的な情報収集を行い、栽培技術の習得や向上、コスト削減に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラマの舞台としてテレビや新聞、雑誌等に大きく取り上げられていることを活用し、継続的に注目されるようにPRする。</li> <li>・ワイン特区や6次産業化などの有効活用</li> <li>・規模拡大に対する支援・助成の充実（農地・トラクター等農機具の購入資金の補助、助成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラマの舞台としてテレビや新聞、雑誌等に大きく取り上げられていることを活用し、継続的に注目されるようにPRする。</li> <li>・ワイン特区や6次産業化などの有効活用</li> <li>・規模拡大に対する支援・助成の充実（農地・トラクター等農機具の購入資金の補助、助成）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・有害鳥獣による被害拡大の対策強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で栽培している作物を害から守る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>猟銃資格・・・青年部員6名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わな・猟銃等の免許取得や資格の維持管理、電柵・わな等器具の助成・サポート</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年部活動の参加が一定の部員に集中傾向である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年部の組織活動を通じ、各自の意識の向上、責任やリーダーシップを身に付け次世代を担う農業者の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の意見や考えを発言できる環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年部活動に対するアンケートの実施</li> </ul>		